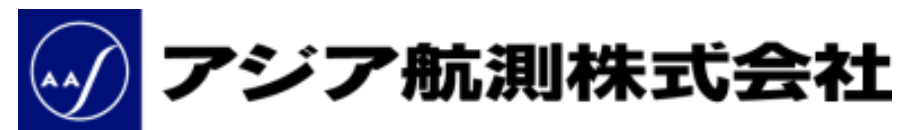
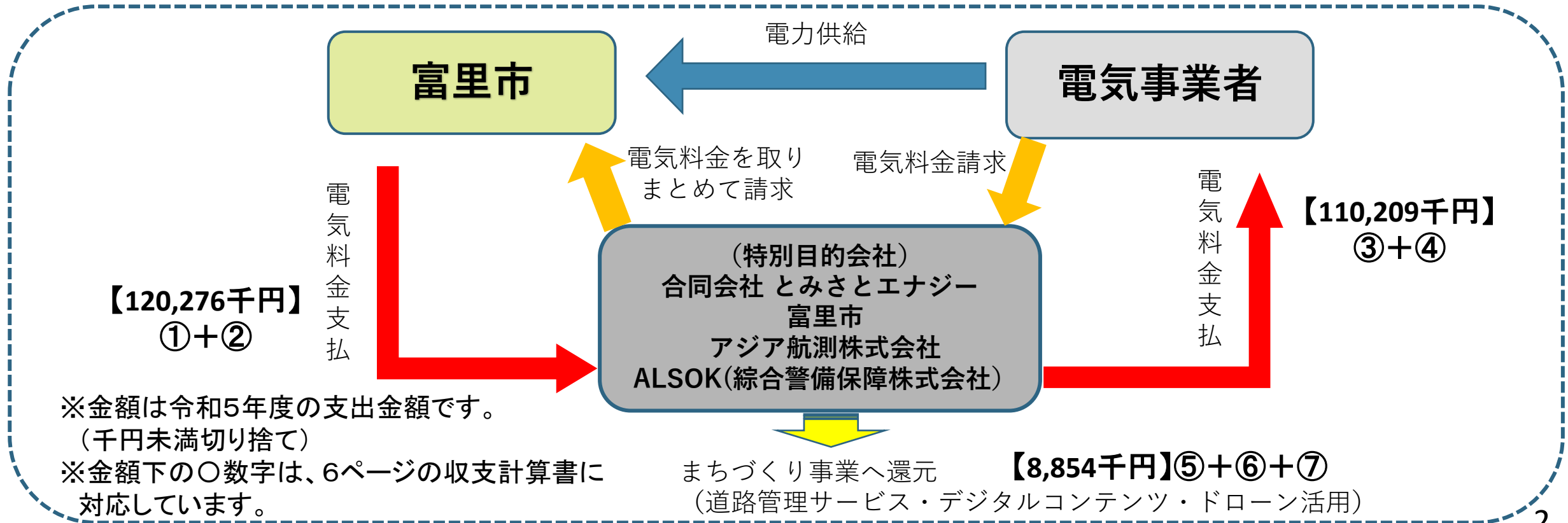


令和5年度 とみさとエナジー 事業報告及び決算報告



令和5年度 とみさとエナジー 事業報告

令和3年1月に富里市・アジア航測株式会社及び総合警備保障株式会社の3者で「合同会社とみさとエナジー」を設立し、令和3年4月から公共施設への電気供給事業を開始しました。
電気事業で生み出した収益で、まちづくりへの還元事業として「道路管理サービス」及び「デジタルコンテンツの制作」「ドローンの活用」を実施しました。



市民アンケート等でも多く求められている生活道路、特に住宅団地内道路を重点に、「道路のパトロール及び簡易補修業務」と「舗裝修繕工事」を実施しました。

●団地内道路のパトロール及び簡易補修業務 (1回/月)



市内の全団地を対象に、パトロール及び小規模な簡易補修を行い、道路の走行に危険な状況が無いかを点検しました。
月1回のペースでALSOKにより市内の団地を順次巡回しています。

●パトロール状況や昨年度実施した路面状況調査等の結果により舗裝修繕工事箇所を決定

⇒令和5年度実施箇所は「久能桜台団地」



路面調査の結果を参考に、令和5年度は桜台団地で、市内事業者が舗装工事を施行し、きれいに修繕されました。

工事延長:約100m、面積:602㎡



デジタルコンテンツの制作(まちづくり還元事業)

デジタルコンテンツ関係経費 3,504,056円

令和5年度は、デジタルコンテンツを使ったまちづくり還元事業の取組として「スイカロードレース大会におけるARとみちゃんの実施」や、リアルなデジタル動物が出現する「2.5じげん動物園」というデジタルスタンプラリーを実施しました。

今回のデジタルスタンプラリーは末廣農場及び別邸公園にて実施しましたが、様々な場所で実施可能なデジタルコンテンツとなっていることから、今後、市のイベントへのコンテンツ追加で、魅力の創出や更なる来場者への満足度向上へ繋がられるよう検討します。

【令和6年6月16日】開催

第41回富里スイカロードレース大会では、2種類の「ARとみちゃん」を用意して、参加者の皆さんに楽しんでいただきました。



総再生回数
ようこそver 224回

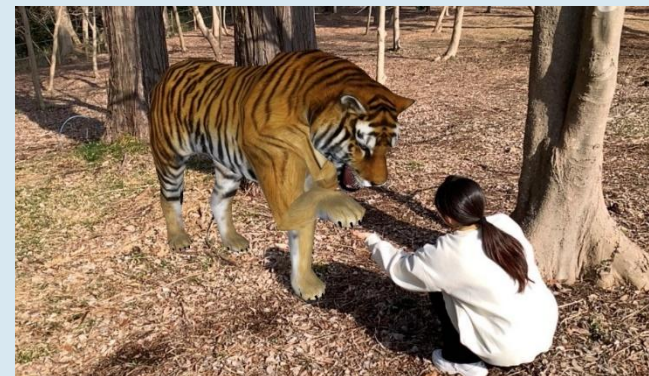
総再生回数
ファイトver 309回



【令和6年3月23日～4月21日】



参加DL数 156回
動物再生数 1,451回
写真撮影回数 693回
動画撮影回数 62回



令和6年4月11日、4月18日の千葉日報に「2.5じげん動物園」が大きく取り上げられました。

ドローンの活用(まちづくり還元事業)

ドローン活用経費 30,000円

ALSOK(総合警備保障株式会社)の所有するドローンを用いて、本市消防職員とALSOK社員が連携してドローンを活用した災害救助訓練を行いました。

日時:令和5年11月16日(木)10時～

場所:富里市消防本部

内容:ドローンを活用した災害救助訓練



ドローンの実機を使っでの訓練により、できること、できないことの確認及び機種仕様や運用における課題等を認識することができました。

令和5年度 収支計算書

(事業期間: 令和5年4月1日～令和6年3月31日)

【歳入の部】

科目	決算額
電気料金(高圧)	108,102,791 ①
電気料金(低圧)	12,173,885 ②
雑収入	330
前期繰越利益剰余金	3,410,780
(内訳: 決算修正前繰越利益剰余金)	(3,172,598)
(令和4年度決算修正)	(238,182)
歳入合計	123,687,786

【歳出の部】

(単位:円)

科目	決算額
●電気事業の部	
電気料金(高圧)	98,161,025 ③
電気料金(低圧)	12,048,794 ④
●還元事業の部	
道路管理サービス経費	5,320,000 ⑤
デジタルコンテンツ制作費	3,504,056 ⑥
ドローン活用費用	30,000 ⑦
●会社運用の部	
事務委託等	932,880
消耗品等	10,260
税金等	80,818
令和4年度決算修正	238,182
歳出合計	120,326,011

差引残額

3,361,775円 6

富里市一般会計における電気料比較

年間電気料金の比較(一般会計)

令和4年度 126,129,478円

令和5年度 104,087,020円

年間比較で**およそ2200万円減少**

電気料金の内訳

再エネ賦課金

燃料費調整額

電力量料金

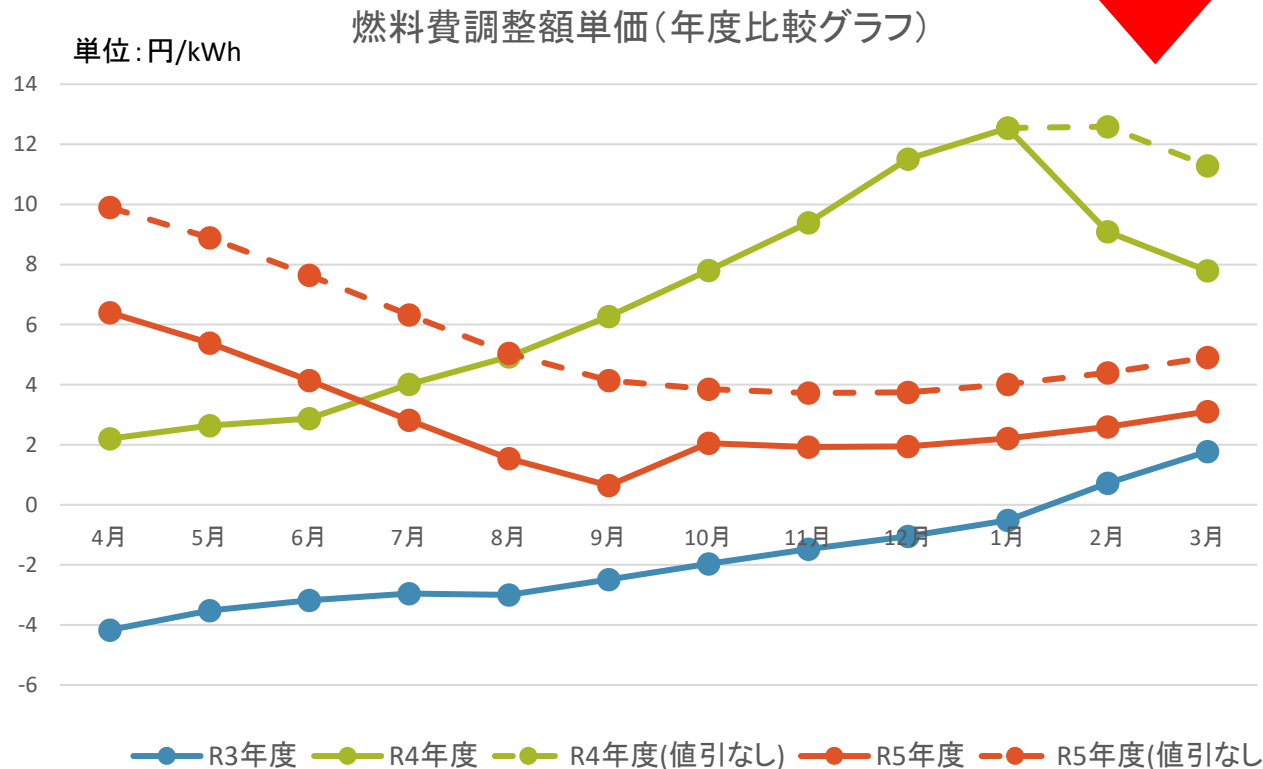
基本料金

要因

①政府の激変緩和措置

②燃料費調整額が減少傾向で落ち着いている

③電力使用量が減少(LEDへの変更等)



今後の展望について

現在の電気料金を取り巻く情勢等について

【上昇要因】

- 2024年11月から激変緩和措置がなくなる？
- 火力発電の燃料である石炭、天然ガスは値上げが続く
- 再エネ電気は単価が高い

【下降要因】

- 燃料費調整額単価の動向
- 国による電気料補助の行方

○このような情勢の中、上昇要因の方が大きく、今後も電気料金の値下がりには期待できない状況ですが、次回契約切り替えに向けて、電力市場の動向に注視しつつ、再生可能エネルギーへの転換なども視野に入れて検討を進めてまいります。